

お話を読んで、友達に手紙で伝えよう！

〔くじらぐも（光村図書）〕

第1学年 1名 指導者 那須芳子

本単元で育成を目指す資質・能力

論理的思考力、表現力、主体性・積極性

単元について

本単元は、学習指導要領「C読むこと」「イ場面の様子や登場人物など、内容の大体を捉えること。」「エ場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。」「オ文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想を持つこと。」「カ文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。」を受けて設定したものである。

本教材は、体育の授業時間に、空に現れたくじらぐもに子どもたちが乗って旅をするという現実と空想との世界がある話である。会話文を含むくじらぐもと子供たちのやり取りをより豊かに想像することができ、同じ1年生のお話であり、共感しながら楽しんで読むことができる。

児童の実態

「はなのみち」の学習では、文を読んだり挿絵を見たりして登場人物の様子を読み取り、会話を想像して書き込むことができた。「おおきなかぶ」では、繰り返しのあるお話を何度も声に出して読むことで、言葉の響きやリズムの心地よさや面白さを感じ、工夫しながら読み聞かせをすることができた。物語の学習が好きと話している。

また、「読書をするのが楽しい。」と話し、図書室の本の貸し出しの日を楽しみにして本を借りて読んでいる。読書朝会での読み聞かせも楽しんで聞いている。保護者の協力で親子読書もしている。

自分の意見をはっきり話すことができるが、慣れていない相手や改まった場では、声が小さく発言できないときがある。

指導にあたって

指導にあたっては、活動目標を「お話を読んで、友達に手紙で伝えよう！」と設定し、文章を読んで自分の体験と結び付けて感じたことや学校生活の様子などを、保育所が一緒だった友達に手紙を書いて伝えるという目的意識を持たせる。内容をよく理解させるために、設定した「ナゾ」を解きながら「くじらぐも」の音読をしっかりとさせる。動作化しながら音読することを通して、場面の様子を豊かに想像させたい。

第一次では、一人学びをして自分の読みをもたせる。話の大体をつかみ、物語の「ナゾ（課題）」を設定させ、解決していく中で読みを深め、感想を手紙に書いて伝えるという、単元の目的意識を持たせる。

第二次では、物語の展開に沿って、会話文を含むくじらぐもと子供たちのやり取りを2年生と交流しながら役割読みや動作化を取り入れ、音読する。現実と空想の世界の場面の様子について、登場人物の行動を中心により豊かに想像を広げながら読み、「ナゾ」を解いていく。

第三次では、保育所のころの友達等、自分が相手を選んで、学習した感想や学校生活の様子等を伝える手紙を書く。手紙を書いたら2年生と交流させて、助言を受けさせたりして、よりよいものになるようにさせる。

単元の目標

- 文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。 【知識及び理解 カ 文や文章】
- 場面の様子や登場人物など、内容の大体を捉えることができる。 【読むことイ】
- 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 【読むことエ】
- 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想を持つことができる。 【読むことオ】
- 文章を読んで感じたことや分かったことを伝えることができる。 【読むことカ】
- 目的や相手意識をもって、文章を読んだり、手紙を書いたりすることができる。

【学びに向かう力、人間性】

単元を通した課題となる言語活動

想像を広げながら音読して、学習した感想や学校生活の様子等を手紙に書く。

単元でつける「ことばの力」(学習用語)

【読む】

- 登場人物 ○題名 ○あらすじ ○場面
- 音読 ○伝える ○繰り返し
- 手紙 ○ふうとう
- まっしろい ○しんこきゅう
- のびたりちぢんだり ○あつというまに
- ～も ○はりきり ○やっど ○～センチ
- どこまでどこまでも ○天まで

評価規準

教科【国語科】でつける資質・能力			木原小学校として 単元で育成を目指す 資質・能力
知識及び技能 (◎表現力(コミュニケーション力))	思考力・判断力・表現力 【読む能力】 (★論理的思考力)	学びに向かう力, 人間性 (☆主体性・積極性)	
◎相手に分かりやすいように工夫して、主語と述語に気を付けた文を書いている。	★場面の様子や、登場人物の行動など、内容の大体をとらえながら読んでいる。 (構造と内容の把握) ★場面の様子や登場人物の行動を具体的に想像ながら音読している。(精査・解釈) ★文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想を持つようとしている(考えの形成) ★自分の考えを伝えようとしている。(共有)	☆目的や相手意識をもって、文章を読んで自分の体験と比べながら考えたことを伝えようとしている。	【論理的思考力】 ・登場人物の行動や場面の変化に気付いて工夫して音読している。 【表現力(コミュニケーション力)】 ・相手に分かりやすく工夫し、自分の考えを書いて伝えている。 【主体性・積極性】 ・自分の体験と比べながら考えたことを、進んで相手に伝えようとしている。

精査力・解釈力を育てるための対話の工夫

【テキストとの対話】

(1) 物語10の読みの視点を活用した一人学び

<p>① 時…四時間目め ② 場所…学校, 運動場, 空, ③ 登場人物…一年二組の子どもたち, 大きな雲のくじら, 先生, ④ 中心人物…くじらぐも ⑤ 対人物…一年二組の子どもたち ⑥ 出来事…体育の授業時間に, 空に現れたくじらぐもに子どもたちが乗って旅をする。 ⑦ 結末…四時間目の終わりにくじら雲に学校まで送ってもらって, 別れる。 ⑧ 物語を一文で表す…一年二組の子どもたちがくじら雲に乗って空を旅するという話。 ⑨ 語句の意味…「とまれ」「まわれ, みぎ。」「おうい。」「ここへおいでよう。」「天までとどけ, 1, 2, 3。」「いきなり」「さあ, およぐぞ。」「どこまでもどこまでも」「おどろく」等 ⑩ 表現の工夫…登場人物が大きく強いものから順に一人ずつ増える, 変化を伴って反復等</p>
--

(2) 物語の「ナゾ」の設定, 解決

< 児童から出てくると予想される「ナゾ」及び指導者が解かせたい「ナゾ」 >

- くじらはどうやってあらわれたのかな。
- 子どもたちはどうやってくものくじらにのるのかな。
- 子どもたちは, 空の中をどうやってすすんでいったのかな。
- くじらは, どうやってかえっていったのかな。

【他者との対話】

(1) 異学年学習の設定

上学年の2学年児童は昨年度, 同時期に「くじらぐも」を学習している。そこで, 学年はそれぞれ1名ずつなので, 一緒に音読をする。2学年児童が1学年児童に音読のポイント等について教える学習活動を設定し, 対話を促す。上学年から教えてもらうことで, 自分たちの学習に対して主体的, 積極的に取り組む姿勢を作ることができる。また, 二次のナゾを解く学習では, 本時の学習の感想等を手紙に書き, 授業の終わりの振り返りで, 交流する活動を仕組むことで, 互いに聞き合い学習し, 対話を促すことができる。

(2) 友達に手紙を書く

学習の感想や, 自分の生活等, **保育所のころの友達等自分で相手を選んで**手紙を書いて, 届ける。反応を知ることで, 多様な意見を知り, 自分の知識や技能, 考えを広げ, 深めさせていく。他の児童との対話を入れることで, 自分の読みについて再考する機会を与えることができる。と考える。

【自己との対話】

(1) 学習の振り返り

毎時間、学習の振り返りを行う。学習を通して考えたことや感想等、相手を決めて手紙を書く。振り返りを行うことで、学びを自覚化させることができる。また、単元の終わりには単元全体の振り返りも行い、自分にはどんな力がついたのか意識させる。

(2) 活動の振り返り

手紙を書いた後、相手に手紙を届ける。その反応を通して、自分の活動の振り返りをさせる。さらに、学級で交流をすることで思考を深めることができる。成果や課題について整理し、他の学習へ生かす。

単元計画 (全8時間)

次	時	学習活動	評価			
			知技	読む	学び	評価基準 (評価方法)
一	1	課題の設定 「くじらぐも」に関心を持ち、学習課題「お話を読んで、手紙で伝えよう！」を設定し、学習計画を立てる。 教材文を読み、物語の大体をつかむ。			○	物語の大体を捉え、学習課題から学習の見通しを持ち、学習計画を立てている。 (ノート、発言)
	2	情報の収集 整理・分析 「くじらぐも」を読み、場面の様子を想像し、ナゾを整理する。		○		本文を読んで、物語の大体を捉え、物語の「ナゾ」を見つけている。 (発言・書き込み・ノート)
	3	情報の収集 整理・分析 ナゾ①「くじらはどうやってあらわれたのかな」について考え、解決する。		○		物語の「ナゾ」について、本文や挿絵をもとに、音読や動作化を通して考え、答えを手紙に書いて伝えている。 (発言・書き込み・手紙)
	4	情報の収集 整理・分析 ナゾ②「子どもたちはどうやってくものくじらにのるのかな」について考え、解決する。		○		物語の「ナゾ」について、本文や挿絵をもとに、音読や動作化を通して考え、答えを手紙に書いて伝えている。 (発言・書き込み・手紙)
	5	情報の収集 整理・分析 ナゾ③「子どもたちは、空のなかをどうやってすすんでいったのかな」について考え、解決する。		○		物語の「ナゾ」について、本文や挿絵をもとに、音読や動作化を通して考え、答えを手紙に書いて伝えている。 (発言・書き込み・手紙)
	6	まとめ・創造・表現 (本時) ナゾ④「くじらは、どうやってかえっていったのかな」について考え、解決する。	◎		○	主語と述語に気をつけて、これまでの学習をもとに相手を意識しながら、手紙を書いて伝えている。 (発表・行動)
三	7	まとめ・創造・表現 自分が選んだ相手に伝えたい内容を考え、手紙の下書きをする。 2年生と交流して、助言を受けながらよりよいものにしていく。	○		◎	目的や相手を意識して、「くじらぐも」の学習で学んだことをいかして、自分の考えを手紙に書いている。 (手紙)
	8	まとめ・創造・表現 実行・振り返り 助言をもとに手紙を見直し、清書する。	○		◎	目的や相手を意識して、自分の手紙を見直して清書している。 (態度・発言・手紙)
		実行・振り返り	手紙を送り、友達からの返信を読む。			

お話を読んで、友達に手紙で伝えよう！

〔お手紙（光村図書）〕

第2学年 1名 指導者 那須芳子

本単元で育成を目指す資質・能力

論理的思考力、表現力、主体性・積極性

単元について

本単元は、学習指導要領「C 読むこと」「イ 場面の様子や登場人物など、内容の大体を捉えること。」「エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。」「オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想を持つこと。」「カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。」を受けて設定したものである。

本教材は、これまで手紙をもらったことがなく悲しんでいたがまくんが、友達のかえるくんからの手紙を待つことで幸せな気分になった話。登場人物の行動や言葉がユーモラスなお話で児童にとって楽しく読むことができる。

児童の実態

本学級の児童は学年一人で、マイペースである。読書が好きで理解力があり、初めての文を正しく読み、あらすじを話すことができる。読書朝会での読み聞かせも楽しんで聞いている。保護者の協力で親子読書もしている。物語の学習が好きと話している。

自分の意見を話すことができるが、注目される場では、声が小さく発言できないときがある。

集中して根気よく取り組むことと、自分の思いや考えが明確になるように書くことが課題である。

指導にあたって

指導にあたっては、活動目標を「お話を読んで、友達に手紙で伝えよう！」と設定し、しっかり音読をさせ、文章の内容と自分の経験とを結び付けて思いや考えをまとめさせる。また、図書館司書の協力で選んだ「がまくん、かえるくん」シリーズやアーノルド＝ローベルの図書を並行読書させ、より理解を図るようにする。

第一次では、一人学びをして自分の読みをもたせる。話の大体をつかみ、物語の「ナゾ（課題）」を設定させ、解決していく中で読みを深め、感想や自分の生活を手紙で伝えるという学習の見通しをもたせる。

第二次では、語の展開に沿って、「がまくん」と「かえるくん」の行動がどう変わっていくか、友達同士の心の交流に共感を持って読み取らせたい。場面の様子について、役割読みや動作化を取り入れ、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読み、「ナゾ」を解いていく。

第三次では、並行読書している絵本や教材文の学習の感想や、自分の生活等、糸崎小学校の2年生に手紙を書く。1年生と交流させたり、学校図書館司書から助言を受けさせたりして、伝えたいことが分かり易いものになるように表現を工夫させる。

単元の目標

- 文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。 【知識及び理解 カ 文や文章】
- 場面の様子や登場人物など、内容の大体を捉えることができる。 【読むことイ】
- 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 【読むことエ】
- 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想を持つことができる。 【読むことオ】
- 文章を読んで感じたことや分かったことを伝えることができる。 【読むことカ】
- 目的や相手意識をもって、文章を読んだり、手紙を書いたりすることができる。

【学びに向かう力、人間性】

単元を通した課題となる言語活動

教材文や「がまくん、かえるくん」シリーズを読み、糸崎小の2年生に手紙を書く。

単元でつける「ことばの力」（学習用語）

【読む】

- 人物 ○題名 ○あらすじ ○場面
- 音読 ○伝える ○繰り返し
- 手紙 ○ふうとう
- かなしい ○ふしあわせ
- 知り合い
- 親愛なる ○親友
- まどからのぞく ○たずねる

評価規準

教科【国語科】でつける資質・能力			木原小学校として 単元で育成を目指す 資質・能力
知識及び技能 (◎表現力(コミュニケーション力))	思考力・判断力・表現力 【読む能力】 (★論理的思考力)	学びに向かう力, 人間性 (☆主体性・積極性)	
◎相手に分かりやすいように工夫して、主語と述語に気を付けた文を書いている。	★場面の様子や、登場人物の行動など、内容の大体をとらえながら読んでいる。 (構造と内容の把握) ★場面の様子や登場人物の行動を具体的に想像ながら音読している。(精査・解釈) ★文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想を持つようとしている(考えの形成) ★自分の考えを伝えようとしている。(共有)	☆目的や相手意識をもって、文章を読んで自分の体験と比べながら考えたことを伝えようとしている。	【論理的思考力】 ・登場人物の行動や場面の変化に気付いて工夫して音読している。 【表現力(コミュニケーション力)】 ・相手に分かりやすく工夫し、自分の考えを書いて伝えている。 【主体性・積極性】 ・自分の体験と比べながら考えたことを、進んで相手に伝えようとしている。

精査力・解釈力を育てるための対話の工夫

【テキストとの対話】

(1) 物語10の読みの視点を活用した一人学び

- ① 時…
- ② 場所…がまくんの家
- ③ 登場人物…がまくん、かえるくん、かたつむりくん
- ④ 中心人物…かえるくん
- ⑤ 対人物…がまがえるくん
- ⑥ 出来事…これまで手紙をもらったことがなく悲しんでいたがまくんが、友達のかえるくんからの手紙を待つことで幸せな気分になったという話
- ⑦ 結末…がまくんとかえるくんがなかよく手紙を待っているところに、4日立ってかたつむりくんが手紙を届ける
- ⑧ 物語を一文で表す…手紙がほしい友達に親友が手紙を書くという温かい友情が感じられる話
- ⑨ 語句の意味…「かなしい時」「空っぽ」「しなければならない」「大いそぎ」「まかせて」「すぐやる」など
- ⑩ 表現の工夫…主語を省略した短文、「すぐやるぜ」といったが4日経った、など

(2) 物語の「ナゾ」の設定, 解決

<児童から出てくると予想される「ナゾ」及び指導者が解かせたい「ナゾ」>

- がまくんがかなしいのはなぜかな。
- かえるくんはなぜ大いそぎで家へ帰って、がまくんに手紙を書いたのかな。
- なぜがまくんは「ばからしいこと、言うなよ。」と言ったのかな。
- かえるくんはなぜ手紙を出したことを言ったのかな。

(3) 並行読書

「がまくん、かえるくん」シリーズやアーノルド＝ローベルの図書を並行読書したり、1年生と一緒に動作化を入れながら教材文を音読したりして自分の経験と結び付けて思いや考えをまとめる。

【他者との対話】

(1) 異学年学習の設定

当該児童は、昨年度の同時期に、上学年の児童が「お手紙」を学習した時、学年はそれぞれ1名ずつなので、一緒に音読をして学習に参加している。そのため、今年度は、同じ中学校区で、幼稚園が一緒だった児童がいる糸崎小学校の2年生に手紙を書いて自分のことを伝えることにする。一緒に音読をする活動を設定することで2学年児童が1学年音読のポイント等について教える下学年に教えることで、自分の学習に対して主体的、積極的に取り組む姿勢を作ることができると考える。また、二次のナゾを解く学習では、本時の学習の感想等を手紙に書き、授業の終わりの振り返りで、交流する活動を仕組むことで、互いに聞き合い学習し、対話を促すことができる。

(2) 糸崎小学校の2年生に手紙を書く

並行読書している絵本や教材文の学習の感想や、自分の生活等、糸崎小学校の2年生に手紙を書いて、届ける。反応を知ることで、多様な意見を知り、自分の知識や技能、考えを広げ、深めさせていく。他校の児童との対話を入れることで、自分の読みについて再考する機会を与えることができると考える。

【自己との対話】

(1) 学習の振り返り

毎時間、学習の振り返りを行う。学習を通して考えたことや感想等、相手を決めて手紙を書く。振り返りを行うことで、学びを自覚化させることができると考える。また、単元の終わりには単元全体の振り返りも行い、自分にはどんな力がついたのか意識させる。

(2) 活動の振り返り

手紙を書いた後、糸崎小学校に手紙を届ける。その反応を通して、自分の活動の振り返りをさせる。さらに、学級で交流をすることで思考を深めることができる。成果や課題について整理し、他の学習へ生かす。

単元計画 (全8時間)

次	時	学習活動	評価			
			知技	読む	学び	評価規準 (評価方法)
一	1	課題の設定 「がまくんとかえるくん」シリーズに関心を持ち、学習課題「お話を読んで、手紙で伝えよう！」を設定し、学習の見通しを持つ。 教材文を読み、物語の大体をつかむ。			○	物語の大体を捉え、学習課題から学習の見通しを持ち、学習計画を立てている。 (ノート、発言)
	2	情報の収集 整理・分析 教材文を読み、人物の行動や会話から、ナゾを整理する。		○		本文を読んで、物語の大体を捉え、物語の「ナゾ」を見つけている。 (発言・書き込み・ノート)
	3	情報の収集 整理・分析 ナゾ①「がまくんがかなしいのはなぜかな」について考え、解決する。		○		物語の「ナゾ」について、本文や挿絵をもとに、音読や動作化を通して考え、答えを手紙に書いて伝えている。 (発言・書き込み・手紙)
	4	情報の収集 整理・分析 ナゾ②「なぜかえるくんは大いそぎで家へ帰って、がまくんに手紙を書いたのかな」について考え、解決する。		○		物語の「ナゾ」について、本文や挿絵をもとに、音読や動作化を通して考え、答えを手紙に書いて伝えている。 (発言・書き込み・手紙)
	5	情報の収集 整理・分析 ナゾ③「なぜがまくんは『ばからしいこと、言うなよ。』と言ったのかな」について考え、解決する。		○		物語の「ナゾ」について、本文や挿絵をもとに、音読や動作化を通して考え、答えを手紙に書いて伝えている。 (発言・書き込み・手紙)
	6	情報の収集 整理・分析 (本時) ナゾ④「かえるくんはなぜ手紙を書いたことを言ったのかな」について考え、解決する。		○		これまでの学習をもとに相手を意識して、手紙を書いて伝えている。 (発表・行動)
三	7	まとめ・創造・表現 「お手紙」の話のおもしろさ等、学習後の感想を書く。 1年生と交流して、感想を聞きよりよいものにしていく。	○		◎	主語と述語に気をつけ、目的や相手を意識して、「お手紙」の学習で学んだことをいかして、自分の考えを手紙に書いている。 (手紙)
	8	まとめ・創造・表現 実行・振り返り 助言をもとに手紙を見直し、清書する。	○		◎	主語と述語の関係、目的や相手を意識して、自分の手紙を見直して清書している。 (態度・発言・手紙)
		実行・振り返り	手紙を送り、友達からの返信を読む。			

本時の学習

【1学年 本時の目標】

○1年2組の子ども達は、帰っていくくじらぐもにどんなことを言ったか考え、自分の思いをまとめた手紙を書くことができる。

【準備物】

掲示用の文や登場人物の絵

【2学年 本時の目標】

○「かえるくんはなぜ手紙を書いたことを言ったのかな。」と行動からかえるくんの気持ちを想像することを通して自分の考えをまとめ、手紙を書くことができる。

【準備物】

掲示用の文や登場人物の絵

○評価規準【教科】(評価方法) ★望ましい姿【資質・能力】	指導上の留意点	学習活動	学習活動	指導上の留意点	○評価規準【教科】(評価方法) ★望ましい姿【資質・能力】
<p>○読む(論理的思考力) 空を旅してから学校に着いて手を振る子どもたちは、帰っていくくじらぐもにどんなことを言ったかのか想像を広げて読み取っている。(発言・態度・手紙)</p> <p>★表現力 帰っていくくものくじらに、自分の思いを伝える手紙を書いている。(発言・態度・手紙)</p> <p>★主体性・積極性 自分の体験と比べながら、1年2組の子ども達の行動を想像を広げながら進んで読み取ろうとしている。</p>	<p>・1年2組の子どもになって、どのように空を旅したか、想起しながら行動やかけ声を工夫して音読させる。</p> <p>・2年生がくじら役になり、2人で音読をする。</p> <p>・海や村、町で何を見て、帰った時、どんなことを話したか、動作化させながらしっかり想像させる。</p> <p>・想像した言葉を使って手紙を書かせる。</p> <p>・みんなのまねをして友達になった雲のくじらの行動に共感させる。</p> <p>・自分も同じようにくじらぐもと友達になり楽しく空の旅をしたい等、自分の思いを書かせる。</p> <p>・主語と述語に気を付けさせる。</p> <p>・学習した感想を伝えさせる。</p> <p>・選んだ相手(糸崎小の1年生)に、自分の学校生活の様子等を手紙に書いて伝えることを確認する。</p>	<p>1 本時の学習課題を確認する。 自分の考えを伝える手紙を書こう。</p> <p>2 本文を音読する。 P10~13 四・五場面</p> <p>3 学校に着いた子ども達の台詞を考える。 ・たのしかったなあ ・ひろくてよくみえたなあ。 ・山もかんたんにこえたよ。 ・もっとあそびたいな。 ・くじらさん、ありがとう。 ・またきてね。 ・これからもともだちでいようよ。</p> <p>4 くじらぐもに宛てた手紙を書く。 ・空は広いんだね。 ・友達になれてよかった。 ・ありがとう。楽しかったんだね。 ・ぼくものりしたいな。 ・木原小学校をみたいな。 ・いっしょにあそぼう、待ってるよ。</p> <p>5 書いた手紙の交流をする。</p> <p>6 本時の学習を振り返り、次時の内容を確認する。</p>	<p>1 本時の学習課題を確認する。 【物語のナゾ】かえるくんはなぜ手紙を書いたことを言ったのかな。</p> <p>2 本文を音読する。 ・P11~P16 手紙を待っている場面を、様子を想像しながら音読する。 ○か「きっと来るよ。」 ○か「だって、ぼくが、きみにお手紙出したんだもの。」 ○か「きみが。」 ○か『親愛なるがまがえるくん。ぼくは、きみがぼくの親友であることを、うれしく思っています。きみの親友、かえる。』</p> <p>3 かえるくんが手紙を書いたことを言ったわけを考えながら、手紙の内容を聞いた後、変化したところを見つける。 ・かえるくんが手紙を書いたことを知っておどろいたが、がまくんはよこんだ。 ・がまくんは、ふしあわせな気持ちからしあわせな気持ちになった。 ・二人とも、とてもしあわせな気持ちで、げんかんにすわっていた。</p> <p>4 かえるくんに、自分の感想を伝える手紙を書く。 ・がまくんをよろこばせたいから手紙を書いたんだね。 ・かたつむりくんがまだやって来ないから、早く知らせたくて手紙を書いたことを言ってしまったんだね。 ・2年生が一人だけだから、がまくんの気持ちがわかるよ。 ・かえるくんは思いやりがあるね。 ・ぼくも1年生が悲しくないように考えて行動したい。</p> <p>5 書いた手紙の交流をする。</p> <p>6 本時の学習を振り返り、次時の内容を確認する。</p>	<p>・前時までの話を想起させる。</p> <p>・かえるくんの行動や言葉を工夫しながら音読させる。</p> <p>・かたつむりが手紙を持って来るのを待っているかえるの行動や言葉を確認させる。</p> <p>・1年生にがまくん役になり、2人で音読をする。</p> <p>・本文の叙述をもとにして、かえるくんの行動について考えさせる。</p> <p>・がまくんと会話から言葉が変わっていき、言ってしまったことに気付かせる。</p> <p>・がまくんの気持ちが表れる言葉を考えさせる。</p> <p>・自分と比べ、共通点や相違点を考えた感想をもたせる。</p> <p>・かえるくんがなぜ手紙を書いたか行動に共感させ、友達を思いやる行動についてがまくんの立場からも考えた手紙を書かせる。</p> <p>・二人の関係から、今後の自分の行動について考えたことを書かせたい。</p> <p>・主語と述語に気を付けさせる。</p> <p>・学習した感想を伝えさせる。</p> <p>・糸崎小の2年生に、「お手紙」の学習の感想や学校生活の様子、自分のことを手紙に書いて伝えることを確認する。</p>	<p>○読む(論理的思考力) 手紙を書いたことを言った行動から、がまくんを思うかえるくんの気持ちを読み取っている。(発言・態度・手紙)</p> <p>★表現力 がまくんに手紙を書いたことを言ったかえるくんに、自分の思いや考えを伝える手紙を書いている。(発言・態度・手紙)</p> <p>★主体性・積極性 自分の体験と比べながら、かえるくんの行動を進んで読み取っている。</p>